

～保育料の広域給付はクラウドシステムでがっちり～

令和4年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名：保育施設と自治体をつなぐICTの実践的研究 ～広域給付システムへの対応～

研究代表者：社会福祉学部 准教授 井上孝之

課題提案者：岩手県保健福祉部子ども子育て支援室 主任主査 吉田 光 (R4) 目時麻由 (R5)
盛岡市子ども未来部子育てあんしん課 主任 松坂彰人

研究メンバー：音山若穂（群馬大学大学院）、上村裕樹（東北福祉大学）

技術キーワード：保育ICT、広域、給付請求支援システム、業務軽減、省力化

▼研究の概要

- 急速な少子化により待機児童問題は解消され、保護者の意向で他市町村の保育施設を利用（広域利用）できる時代となった。
- 保育施設や自治体では広域利用による給付請求作業が純増で煩雑になっている。
- 開発した「広域給付請求支援システム」を自治体に導入し、保育施設との実証実験をとおして業務負担軽減を図り、開発システムの標準化と保育の質向上を目指す。

▼研究の内容

1.調査対象：盛岡広域8市町

2.調査内容：自治体向け広域給付支援システム「**おが～るウェブレポ**」の実証実験

※おが～るウェブレポ：「保育施設と自治体をつなぐICTの実践的研究」（H28地域協働研究ステージⅠ）の研究成果物

3.調査期間：

2022.4～2024.3

2022年度:盛岡市、滝沢市

2023年度:盛岡広域



▼研究の成果

- 盛岡広域7市町から協力を得た。自治体にとっては給付業務の変更となることから、実験には協力的であったが、周辺自治体の動向や今後の国の動き待つ慎重な自治体もあった。
- 担当者へのストレス調査では、導入前と後とのそれぞれの回答が得られ、うち1自治体ではストレス反応の低下が認められた。研究の継続により、調査対象を増やしたうえで、ストレス低減の効果について統計的に確認することが期待される。

おが～るウェブレポは、産官学共同研究から生まれた「給付費等申請クラウドシステム」です。

おが～るウェブレポは自治体と教育・保育施設をつ結び、子ども子育て支援新制度における給付費等の算定並びに申請業務を効率化するために自治体と大学との共同研究により開発されました。

こんな事で困りではありませんか？

- 施設毎の**加算項目の管理**が大変！
- 公定価格の変更により**エクセルの変更**が煩雑...
- 施設との**メールや電話**のやり取りが多くなかなか仕事が進まない
- 加算項目や公定価格の変更のため**通り計算**がたびたび起こる
- 給付費の金額が**本当に正しいか不安**

ウェブレポで解決！



図1 おが～るウェブレポの紹介

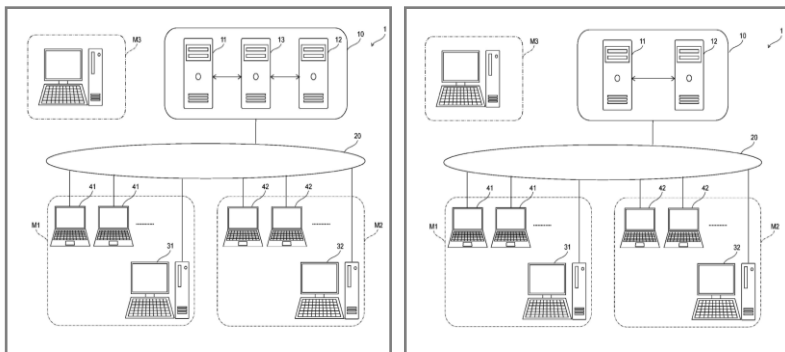


図2 広域請求支援システムの構成

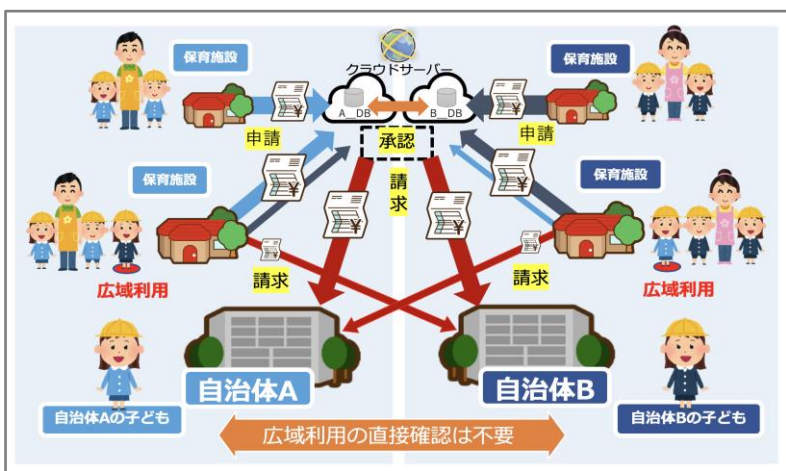


図3 広域請求支援システムのイメージ

- 本研究は、2022～2023年度 [INPIT] 産学連携・スタートアップの支援対象プロジェクト「**保育の質向上を目指す保育支援システムの高度化**」として伴走型支援を受けた。
- 特許の取得にあたっては、INPIT産学連携・スタートアップアドバイザーの杉原長利氏、岩手県立大学研究・地域連携室の小野寺智江氏より丁寧な支援をいただいた。



井上孝之
researchmap

特許 第7145546号 船山 希、井上孝之
特許 第7209412号 船山 希、井上孝之

